

オープンエンドで終わる映画や小説はとても気になる。しかし、学校教育に求めるもの、授業で求めるもの、子どもに求めるものは、常にオープンエンドでありたいと思っている▼オープンエンドを大切にすることは、「日常を大切にするることである」と言い換えるのは、少し乱暴かもしれないが、「大事なことは子どもに言わせる」という考え方に結びつくと言え、納得してもらえらうか▼36号では、記録走大会と5分間走について触れた。記録走大会は終わったが、阿下喜小学校では、体育の時間には「5分間走」が続けられている。新しい節に向かって積み上げているのだ。手前味噌で申し訳ないが、この取り組みは、日常を大切にしたオープンエンドな教育の一つなのだ▼さて、阿下喜小学校では、先週個別懇談を終え、昨日は子どもに通知表を手渡した。本校では、一人ひとり短い面談をしながら渡す。通知表は、クローズエンドである。自らの学びの過程と成長を数値化して現在地を確かめる▼「査定」ではない。叱る材料でもなければご褒美の根拠でもない。内心は、ご褒美だけはあげてほしい。そして「3学期はこんなことに挑戦するよ」「3学期もがんばるよ」と子どもに言わせたい。それがオープンエンドである▼最後の1週間を「流さない」3学期も子どもを伸ばせるだけ伸ばす。体育の時間に5分間走をする子どもを見てうれしかった。